

国語 第6学年 書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

大切にしたい言葉と、それに関わる自分の経験を結び付けて文章にする。名言の説明に終始せず、その経験のどこで自分の考えが動いたかを詳しく書く。事実と、そのときの感想、今の考えを区別する。単元の終わりに残すのは、大切にしたい言葉をめぐる文章。詳しくした場面と、その理由を下書きの空欄に残す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

考えを表す語句の意味や語感を確かめ、自分の経験や考えを述べる文章で使える。経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しくさを調整して書ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えを表す語句の意味や語感を確かめ、自分の経験や考えを述べる文章で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しくさを調整して書いている。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全6時間（書⑥）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○大切にしたい言葉と関係する経験を集め、書く相手と目的を決める。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○起きたこと、そのときの感想、今の考えを分け、文章の順を考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○下書きを書き、経験のどこを詳しく述べると大切にしたい理由が伝わるか考える。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○読み手に理由が伝わった部分を尋ね、詳しくする所と短くする所を選んで書き直す。	思①（発言・学習記録）
	5	○語句や文の続き方を確かめ、事実と考えを区別して文章を仕上げる。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○文章を交流し、経験と考えを結び付けた書き方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しさを調整して書ける。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「その言葉を大切にしたい理由が、出来事のどの部分から伝わりますか。詳しく書く所と短く書く所をどう決めますか」 【めあて】大切にしたい言葉と、それに関わる自分の経験を結び付けて文章にする。 〈予想される児童の反応〉 ・出来事を全部同じ長さで書くと、大事な場面が埋もれる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「その言葉を大切にしたい理由が、出来事のどの部分から伝わりますか。詳しく書く所と短く書く所をどう決めますか」 大切にしたい言葉に関わる経験の事実、当時の感想、今の考えを分けてメモにする。言葉を大切にしたい理由が伝わる順に並べて文章を書く。読み合いで理由が伝わったか確かめ、詳しくする箇所や省く箇所を選んで直す。 〈予想される児童の反応〉 ・出来事を全部同じ長さで書くと、大事な場面が埋もれる。 ・そのときの思いと今の考えは違うので書き分けたい。 ・言葉の意味だけでは、自分の経験との関係が伝わらない。	経験のメモに「起きたこと」「そのとき思ったこと」「今考えること」の見出しを付ける。公開したくない経験は選ばせない。出来事が思い出せない児童は学校生活で印象に残った言葉から探す。 想定する難しさ：有名な言葉の由来を説明するだけになる。実際の出来事に後から考えた気持ちを混ぜる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しさを調整して書いている。（事実と感想を分けたメモ・理由を述べる文章）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・言葉の意味だけでは、自分の経験との関係が伝わらない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その言葉を大切にしたい理由が、出来事のどの部分から伝わりますか。詳しく書く所と短く書く所をどう決めますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、有名な言葉の由来を説明するだけになる。実際の出来事に後から考えた気持ちを混ぜる。この場合は、経験のメモに「起きたこと」「そのとき思ったこと」「今考えること」の見出しを付ける。公開したくない経験は選ばせない。出来事が思い出せない児童は学校生活で印象に残った言葉から探す。おおむね満足できる状況は、経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しくを調整して書いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

大切にしたい言葉をめぐる文章。詳しくした場面と、その理由を下書きの空欄に残す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」200行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

